

非小細胞肺癌切除症例における予後因子の検討・予後因子としての糖尿病の既往及び術前HbA1cに関する後ろ向き研究

「国立病院機構京都医療センターで非小細胞肺癌に対して手術を受けられた患者様へ」

当院呼吸器外科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は通常の診療で得られる記録を集計することによって行います。このような研究は、文部科学省・厚生労働省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」の規定により、対象となる患者さんお一人ずつから直接同意を得る必要はなく、研究内容の情報を公開することが必要とされています。この研究に関する問い合わせなどがありましたら、以下の「問い合わせ先」へご連絡ください。

「研究課題名」：非小細胞肺癌切除症例における予後因子の検討・糖尿病の既往及び術前HbA1cは予後因子となりうるか？

「主たる研究機関」：国立病院機構京都医療センター・呼吸器外科

「研究責任者」：元石 充（国立病院機構京都医療センター・呼吸器外科）

「研究の目的と方法」：

肺癌罹患率は加齢とともに直線的に上昇していくことが知られており、平均寿命の延長に伴い手術件数は増加しています。また糖尿病罹患率も加齢とともに増加するとされていますが、非小細胞肺癌切除症例において糖尿病の有無や術前HbA1cの影響に関する報告はあまりありません。よって非小細胞肺癌切除症例に対して糖尿病の有無や術前HbA1cが予後因子となりうるかを検討する目的で後ろ向き観察研究を計画しました。2007年1月から2015年12月に当院で非小細胞肺癌に対して完全切除が行われた患者様（術前治療施行例や組織学的に神経内分泌腫瘍と診断された症例は除外）のカルテを参照し背景や生存率、生存期間に関する予後因子を統計学的に検討します。

カルテの閲覧は当院呼吸器外科医が行い、カルテ内容が施設外に持ち出されることはありません。また個人情報厳密に保護されます。本研究はすでに当院における倫理委員会で承認されておりますが、この研究の対象となります患者様につきましては、ご異存がなければ調査に加えさせていただきたいと思っております。なお、研究結果は、学会や出版物として公表することがあります。ご理解とご協力のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

* 上記の研究にカルテ情報を利用することをご了解いただけない場合は、以下にご連絡ください。なおその場合においても患者様が診療上不利益をこうむることは一切ありません。

「問い合わせ先」

〒612-8555 京都府京都市伏見区深草向畑町1-1

国立病院機構京都医療センター・呼吸器外科 元石 充
電話 075-641-9161 FAX 075-643-4325